

ひぐち明の近況活動報告

一般質問

樋口 新型コロナウイルス感染症治療薬の早期開発について



知事 現在、関係者が最大限の努力を重ねており、来年の10月にヒトへの治験を開始することを目指している。その実現に向け、産学官による支援体制の構築により、国予算による大型研究プロジェクトの採択を目指すほか、ベンチャーキャピタルや大手製薬会社とのマッチングイベントを開催し、資金調達や業務提携を支援するなど、精一杯取り組み、治療薬の一日も早い完成を目指す。

樋口 商業施設等の包丁の販売管理について
知事 今回の事件では、包丁が凶器として使用されたことから、販売店に対し、ケース内に仕舞い込むことや店員に声を掛けないと手にすることができないといった対応を求めることも考えられる。一方で、包丁は、県民生活の中で日常的に使用されているものであり、専門店や量販店、スーパー等様々な店舗で販売されている。店舗におけるこうした対応は、多くの店舗に負担を求めるうことになり、購入者の利便性にも影響を及ぼすことになる。このため、専門家や販売店等の関係者がどのように考えるか、意見を伺いたい。

樋口 商業施設等のトイレの配置について

知事 本県では、安全・安心まちづくり条例に基づく防犯環境指針を定めている。県としては、引き続きこの指針に基づき、商業施設に対し、犯罪の防止に努めるよう求めるとともに、今回の事件も念頭に置きながら、施設の新築や大規模改修時に防犯上配慮すべき点等について、専門家や販売店等の関係者の意見を伺いたい。



空港・交通等調査特別委員会視察（嘉麻市）

嘉麻市の市営バスの広域運行の取り組みについて視察調査しました。交通の利便性の向上は、全ての自治体が抱える問題であり、嘉麻市の取り組みは他の地域の参考になるものと思います。



令和2年7月豪雨災害対策についての緊急要望と被災地視察

2年前の豪雨で氾濫した久留米市の山ノ井川が今回も氾濫しました。再発防止に向けての検証と対策を急がなければなりません。被害に合われた皆様に心からお見舞い申し上げます。また小川知事から自民党県連に対して豪雨対策についての要望がなされました。直ちに党本部に伝へ、迅速な対応を求めました。党と県が一体となって早急復興に全力で努めて参ります。



西村内閣府特命担当大臣 ご来県

西村内閣府特命担当大臣が自民党福岡県連会館にお越しになりました。本県の新型コロナの現状と対策についてご説明し、経済再生に向けての要望をさせて頂きました。この国難を一日も早く乗り切るために益々のご活躍を期待しております。



駐日オーストラリア特命全権大使 ご来県
駐日オーストラリア特命全権大使リチャード・コート様が福岡県議会を訪問されました。昨年のオーストラリアの森林火災は甚大でした。早期の自然再生を心から祈念致しますとともに、両国の交流促進の為、今後も頑張って参ります。



NPO法人はあとスペース ご来訪

はあとスペースは飲酒運転撲滅活動に取り組まれているNPO法人です。リーダーの山本様は各地に出向き飲酒運転撲滅を訴えてこられた活動も今年で10年を迎えられました。はあとスペースの皆様と共に飲酒運転ゼロを目指して参ります。

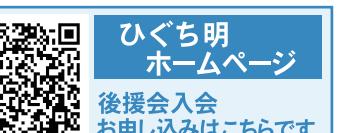
脊振の息吹

6月と9月の定例県議会で、久しぶりに一般質問に立った。

3期目の後半から4期目にかけて自民党県議団の政策審議会の会長や、議会運営委員長、県議会議長等の重たい役職を任せられ、議会質問からしばらく遠ざかっていた。

現在は重責から解放されたので再び議会質問に力を注ぐ事にした。

質問の内容は上記の通りだ。



ひぐち明
ホームページ

後援会入会
お申し込みはこちらです。

福岡県議会議員 ひぐち 明 事務所

〒811-1311 福岡市南区横手4丁目5番1号
TEL : 092-573-1892 FAX : 092-573-1897

「我々は質問を通して県職員を育てないといけない。だから真剣な議論が必要だ。彼らがどの部署に異動しても常に前向きに取り組んで貢うために。君は私に似てると思ったから声を掛けた。」
「ありがたい助言だった。これまで自分自身を成長させる事に必死だった。」「真剣な議論によって私も職員も成長する。」
「そういう気持ちで取り組んできたが、職員を「育てる」という意識は薄かつたと言わざるを得ない。」
「先日50歳となり、まだまだ若輩ではあるが人を育てるという事に重きを置かなければと考えさせられた。」

「私は大声を出して議論してもダメだと指摘しているのかと問うと彼は、そうではないと前置きし、次の様に答えた。「我々は質問を通して県職員を育てないといけない。だから真剣な議論が必要だ。彼らがどの部署に異動しても常に前向きに取り組んで貢うために。君は私に似てると思ったから声を掛けた。」
「ありがたい助言だった。これまで自分自身を成長させる事に必死だった。」「真剣な議論によって私も職員も成長する。」
「そういう気持ちで取り組んできたが、職員を「育てる」という意識は薄かつたと言わざるを得ない。」
「先日50歳となり、まだまだ若輩ではあるが人を育てるという事に重きを